

No.	質問2 あなたの年齢層を教えてください。	質問7 10年後、どのようなまちにしたいですか。そのために、あなたができることは何ですか。	質問8 子どもたちのために、自分ならこんなことができる、というご意見をお聞かせください。
91	回答なし(大人)	明治の初めは学校と役場が同じ建物に入っていたりした。学校は地域の拠点として、地域の取組をコーディネートする人材が常駐したり、住民向けのサービスの一部ができればよい。単身者や子どもがいない世帯も気軽に学校に来て、様々な経験・活動ができるようにする。多様なバックボーンをもつ人々が安全に暮らして交流し自己実現できるまち。学校に来る方々とオープンマインドで接する。	仕事を一生懸命する。
92	30代～40代	子供たちが安全に自由に遊び、学べるまち	選挙で、子供に対する教育や公共の場の安全と充実に予算をさいてくれる、確実にはたらきかけてくれる人を選ぶ
93	50代～60代	(回答なし)	(回答なし)
94	50代～60代	子供達がそれぞれの持っている能力を発揮し、生かせる町。その為には個々の子供の特性を観察し、伸ばし見守る環境が必要と感じます。一学級の生徒数を20人程度にすること。教員の雑務を極力減らし、子供と向き合える余裕と時間を持つこと。私が実践していることは、身近にいる子供達に、その子の興味に添った本を提供し、更に視野を広げてもらおうようにしていることです。	現在視覚障害者の方達に音訳ボランティアをしています。色んな障害を持っている子供達(発達障害児等も含めて)の可能性を引き出す取り組みが、全ての子供達にとっての良い教育環境作りと連動しているのではないかと考えています。障害を持っている子供達は、その水先案内人のような存在ではないでしょうか？杉並区を目指す教育が、目先の教育ではなく、地に足の着いた深いものであることを願います。
95	50代～60代	まちがあれば、良いんじゃないですか？	マスクをしていない大人に、「マスクしろ！」って言う、子どもをつくれれば。非常に不愉快でした。